



ファビアン・ソリン

滞在期間: 2008年1月～2月

国籍: フランス

所属: マサチューセッツ工科大学合気道部

名門校マサチューセッツ工科大学での研究の傍ら、同校合気道部で稽古しています。一番寒い時期に滞在しましたが、非常に良い経験だったようです。

内弟子としての一ヶ月

ファビアン・ソリン

私は2008年1月から一ヶ月間、内弟子として小林道場に滞在しました。とても素晴らしく、また色々なことがあり、ここに書くことは難しいですが、私の感じたことを書き連ねてみます。

その前に、小林師範と弘明先生、またそのご家族の皆さんに、内弟子として私を暖かく迎え、住み込む機会を与えてくださったことに深くお礼申し上げます。彼らの広い心と親切な心は道場の雰囲気にも現れていて、道場では緊張感のある合気道の稽古と友好と平安が同時に存在する不思議な空間が生まれていました。私はその中で彼らの信頼に足りうる人間になれたでしょうか。

また、小林道場を私に紹介してくれたジェフさんにも感謝しています。このような経験ができたのも彼のおかげです。彼には一生分のビールとお酒の借りができました！

さて、少し自己紹介します。合気道は田村師範を代表とするフランス合気会の Ecole d'Aikido Traditionnel というパリの道場で始めました。その後、勉強のためにアメリカのボストンに渡り、金井師範の道場、また、マサチューセッツ工科大学合気道部で稽古を続けました。

そのボストンで、ジェフさんと出会いました。彼から小林道場の内弟子研修制度のことを聞き、大学院を卒業した際、しばらく休みを取り、旅行するいい機会だと思いました。

もともと日本には行ってそこで稽古してみたいと思っており、その時点では日本にいたジェフに、私の保証人となり小林道場の内弟子として推薦してもらえないか尋ねました。そして、今ここにいます。

この住み込み体験では色々なことを学ぶことができましたが、それには少し不便なことが伴いました。寒さ、疲れ、乾燥肌とひび割れ、筋肉痛、そしてまた寒さ、です。ジェフが言うには、彼が私の住み込み予定期間について弘明先生に話すと、弘明先生は私に一月は一番寒い時期だと伝えるようにジェフに話しました。

朝の五時に暖かい寝袋から道場の冷たい空気の中へ身を晒しながらも、五分もしないうちに掃除のために全ての窓を開けなければいけないため、もっと寒くなるということを、考えながら起床する、というのは「楽しい生活」とは呼びがたいものがあります。しかし、これも経験であり、訓練です。そして、いかに人間がそのような状況に順応していくかを見ることはとても興味深いものがあります。





その上、何とも掃除の回数の多いことでしょうか。内弟子のスケジュール表を見れば、稽古と稽古の間に空き時間が多いと思いがちですが、そうではありません。しかし、最初のうちは少しストレスに感じるかもしれませんが、すぐにこのスケジュールに慣れ、これも訓練のうちだと思えるようになります。道徳的観点からの合気道における掃除と規律の重要性について、色々なところで聞いたり、読んだりしましたが、今一つ良く理解できていませんでした。今では少し理解できたような気がします。

これらの内弟子生活におけるつらい面は予想していたことでした。しかし、これらの苦難を乗り越えることができたのは、意外にも、合気道の稽古ができるという喜びがあるということだけでなく、日本という国とそこに住む人々のお陰でした。

滞在中、稽古でここでは書き表せないほど多くのことを学ぶことができました。後もう一ヶ月滞在して剣の動きをもっと覚えていきたくったほどです。技術的なこと以外にも、稽古、武道に対する心構え、リラックスすることの大切さ、体の中心について、また「元気」についてなど、私にとってはどれも興味をそそられる物事ばかりでした。

小林師範と弘明先生をはじめ、他の指導員の方々、また、会員の皆さんはとても親切に色々な技や知識を私に教えてくれました。それらは私のほとんどゼロに近い日本語の理解力に対して口で話されたわけではないのですが、日本文化というものが彼らの普段の稽古の中に息づいているのだと感ずることができました。

これ以上変なことを書く前にやめますが、この経験はとても興味深く、今後もこの不思議な体験についてもっと深く理解できるようになるために稽古に励んでいこう、という気持ちになることができました。

疲労と寒さは会員の皆さんの親切心と笑顔の前では吹き飛んでしまいました。一人一人について書き表せませんが、彼らに共通することは、合気道に対する献身的な態度、寛容な心、そして純真な心です。彼らのおかげで最高の経験ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

彼ら全てに共通することがもう一つありました。それは「宴会好き」ということです。小林道場の新年会と、東村山道場の新年会の両方に参加したことは、私にとってとても素晴らしい文化体験となりました。それらはまた、たくさんの美味しい料理と美味しいビールや日本酒を味わう最高の機会でもありました。所沢道場での私の送別会に対しても、とても感謝しています。宴会の次の日の稽古は必ずしも楽なものではありませんが、内弟子として道場に來たら宴会は楽しみにすべきことだと思います。

美味しい料理、日本酒、ビール等々、日本が初めての私でも発見できたことは素晴らしいことでしたが、私のようなフレンチ男にとって、日本での風習・慣習は最初とても変に感じられました。例えば、車が無いのに赤信号で律儀に立ち止まっている歩行者や、電車がいつも時間ぴったりに動いている事実。

日本の社会にはとても興味深いものがあります。陳腐な言い方ですが、伝統的な物事と革新的な物事の融合がそこにあり、それらを海外からの訪問者が理解するには長い時間、一ヶ月以上は間違いなく必要です。

内弟子生活の中にも少し自由な時間もあり、合気道の世界だけでなく、日本の文化や日常生活を少しだけでも



体験することができたことは、非常に価値のあることだと思います。

ここまで読んで理解できたと思いますが、私が体験できたことはとても素晴らしいことで、機会があれば誰でも同じことをするように強く勧めます。

最後に、小林道場の先生方に感謝します。そして、内弟子生活の色々なことを教えてくれた笠原先生とアニタに感謝します。「出来の悪い生徒」でなかったことを祈ります。

もしボストン、もしくは将来カナダかフランスに来ることがあれば、内弟子として小林道場に滞在中、皆さんから受けたおもてなしを、今度は皆さんに対してお返ししたいと思います。

ありがとうございました。



(左から) 小林師範・弘明先生・奥様・私